

## 2020年1月26日 説教「霊の糧をいただきつつ」

マタイの福音書4章1-11節

黙示録2章に関連した聖書箇所を読みます。ペルガモにある教会に、「隠れたマナを与える」と言った部分からです。

### 1. 神の口から出ることばにより (1-4節)

①断食のあとで (1-2) 「さて、イエスは、**悪魔の試みを受けるため、御霊に導かれて荒野に上って行かれた。そして、四十日四十夜断食をしたあとで、空腹を覚えられた。**」イエス・キリストは宣教に入る前に荒野に行って、備えをしたのです。それは御霊なる神の導きでもありました。その目的は悪魔からの試み(誘惑)を受けるためでした。霊的戦いの前にイエスは40日40夜、断食をされました。それは人間が食べないで生きられる限界点でもありました。体重も相当に減っていたことでしょう。空腹を覚えられたとありますが、すぐに硬い食物を食べれば受けつけないほどであったでしょうが、空腹の極致であったことは間違いありません。

②誘惑 (3) 「すると、**試みる者が近づいて来て言った。『あなたが神の子なら、この石がパンになるように、命じなさい。』**」そこに誘惑する者が近づいて来たのです。誘惑者はその人の弱点をよく知っています。人によってはお金に弱い人がいるでしょう。イエスはこの時に、人間の生存にとって不可欠な胃の腑を満たす食べ物が必要で、それが弱みでありました。そこで試みる者は巧みに誘ったのです。「あなたは神のなのでしょう？ どうもお腹が空いているようですね。それなら、この石(リソス)がパン(アルトス)になるように、お命じになったらどうですか。

③パンだけでなく (4) 「**イエスは答えて言われた。『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる』と書いてある。**」するとイエスは旧約聖書(申命記8:3)の言葉を引用して、答えられたのです。「人はパンだけで生きるのではない。主の口から出る一つ一つのことばによる」。ここで大切なことは、イエスは口から入るパンの価値を認めていることです。ただ、人間はそれだけで生きる存在ではなく、神の口から出る言葉によって生きるものであるということ述べられたのです。出エジプトの民がマナによって生かされたのもそのことを学ぶためでした。

### 2. 主を試みるサタン (5-7節)

①聖なる都の神殿に (5) 「**すると、悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、神殿の頂に立たせて、**」悪魔は御言葉によって誘惑が退けられても、めげません。次はイエスを聖なる都に連れて行ったとあります。これは荒野から空間移動したというよりも、霊の世界での話ととるべきでしょう。ですから、神殿というの見える建物の

ことではないでしょう。見えませんが、神殿という都の象徴である建物の一番高い所に立たせたのです。

②身を投げてみよ (6)「**言った。『あなたが神の子なら、下に身を投げてみなさい。『神は御使いたちに命じて、その手にあなたをささえさせ、あなたの足が石に打ち当たることのないようにされる』と書いてありますから。』**そして、イエスが神の子であることに狙いをつけて、試したのです。詩篇 91:11,12 にある御言葉から、高い所から飛び降りても、御使いがその手で助けてくれてささえてくれるでしょう。足が石に当たることもなく、怪我をすることもないでしょう。さあ、飛び降りてごらんなさいよという誘いでした。

③試みてはならない (7)「**イエスは言われた。『あなたの神である主を試みてはならない』とも書いてあります。』**イエスは、申命記 6:16 を引用されて、神を試みることは罪であると断じたのです。悪魔は、誘惑している相手が神ご自身であることを、わきまえていなかったのでしょうか。また、その方が愚かな誘いかけにのりと思ったのでしょうか。今回も御言葉によっては退けられました。

### 3. 栄華という誘惑 (8~11 節)

①高い山に (8)「**今度は悪魔は、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての国々かとその栄華を見せて、言った。『もしひれ伏して私を拝むなら、これを全部あなたに差し上げましょう。』**」ここに出て来る高い山も実際に見えるものではなかったでしょう。悪魔はイエスをその山の上から、この世の華やかな所を見せて誘惑したのです。悪魔を拝むなら、その権力や富をあげるというものでした。その力や富も、神である方から出たのですから、イエスに対してそれを言うのは全くの見当外れなことでした。それを言う相手を間違えていると言っても良いでしょう。それほどに悪魔もつけ狙い所を見つけれなくなっていたのでしょうか。

②主にだけ仕えよ (10)「**イエスは言われた。『引き下がれ、サタン。《あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えよ》と書いてある。』**」主イエスは、まずは「引き下がれ、サタン」と悪魔に対して明言します。そして、今回も御言葉を持って退けます。「あなたの神、主を恐れなければならない。主に仕えなければならない」(申命記 6:13)。主イエスに対して、自分を拝めと言ってきた悪魔に対して、礼拝されるべきは神である主であることを伝えたのです。

③御使いたちが (11)「**すると悪魔はイエスを離れて行き、見よ、御使いたちが近づいて来て仕えた。』**」イエスを責め立てても、どうしようもないのを知って、その場から去って行きました。すると、イエスの近くにやってきたのは、御使いたちでした。キリストに仕える者達でした。キリストが宣教の前にあたって、悪魔の誘惑に勝利されたということの意味していました。

### 《結論》

今朝の聖書箇所には悪魔がイエス・キリストを誘惑しています。実を言うと、この誘惑はとても巧みなものでした。即ち、人間の弱点をついていたからです。第一の誘惑は、空腹のイエスの食欲という弱さをついています。あなたも、お腹を空かせていた時に、食べ物のごとで誘われれば、乗じてしまうかもしれません。二番目の誘惑は人間の野心をついています。言い方を換えれば名誉心をついています。「あなたが神の子なら」という言い回しのなかに、それがあります。神の子なら、支えてくれる方がいるのでしょうか？という誘いは巧みです。私達にも、私たちの誇りとしているところをくすぐられると、心をゆるしてしまいやすいでしょう。私どもなども、「誇り」については気を付けなければならないと思わされます。三番目の誘惑は人間の貪欲、物欲をついています。富や力というものは、目の前になれば誘惑にはなりません。しかし、目の前にお金を積まれたり、地位や力をぶらさげられたりすると、心はころりと傾いてしまいやすいのです。自分の大切なもの、例えば信仰や真実や愛なども、お金などと引き換えに、売り渡してしまいやすいのです。

悪魔の誘惑について気をつけなければならないことがあります。それはルターの次の言葉です。「悪魔の道具は、神の言葉、信仰深さ、文

化、宗教、奇跡である」。つまり、今朝の 6 節にもあるように、悪魔は聖書の言葉を用いて、イエスを誘惑しているのです。霊的で信仰的だと思われていることを用いて、誘惑されることがあるのです。ある人は奇蹟的出来事に、ある人は知的な話に乗せられてしまうかもしれません。ここで、主イエスは、いずれも御言葉を用いて退けておられます。御言葉のたくわえがない場合でも、祈りつつ、助言者のアドバイスを聞きながら進めば、誘惑から免れることができるでしょう。

さて、今朝は特に 4 節の主が引用された「人はパンだけでなく、神の口から出る一つ一つの言葉による」という御言葉から、まとめとして考えましょう。人間の肉体にとって欠かせないのはパン（食べ物）です。それと同じように、私達のもう一つのいのちにとっても欠かせないものがあります。それが霊の糧です。日頃から食していれば、これが不可欠であることがわかるのですが、しばらく食べないでいると、平気だと思ってしまい、霊の命がやせ細ってしまうことに気づかなくなるのです。キリスト信仰によって与えられる命を大切にしようと思うならば、霊の糧を日々いただくようにしたいものです。黙示録で「隠れたマナを与える」と言ってくださった主のお言葉は、今の私達にも重要です。天来の御言葉をいただきながら、今週も日々歩いていきましょう。